

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

マクロコズム 2002.3

◎カラー特集 航空機による派遣事業



vol. 45

(財)青少年国際交流推進センター

～航空機による派遣事業～

平成13年度の「航空機による派遣事業」は、8月28日から9月19日の期間で各国毎（6か国）に派遣された「国際青年育成交流」と9月1日から19日の「日本・中国青年親善交流」及び9月5日から19日の日程による「日本・韓国青年親善交流」の3事業が実施されました。



▲ ミングンバゴダ前にて

ミャンマーの伝統打楽器「マウン」の演奏をおしえてもらう



ミャンマー



▲ お世話になったモンテレイの人たちに紀州の手毯をプレゼント

メキシコ



▲ 羊毛の織物で有名なテオティトラン・デル・バジェにて

スウェーデン



▲ ヨンショーピン市長のラーシュ・エヴァート・サーリン氏を表敬訪問



▲ トナカイ牧場でトナカイと戯れる



▲ フォークダンスグループのメンバーにけん玉を紹介



▲ 国会議事堂にて

オーストリア

国際青年育成交流



▲ NGO「Friends of Environment」を訪問



▲ フェイサルエ男子小学校訪問

ジョルダン



ジョルダン団長とシンバブエ団長の両氏がお礼の挨拶のため国連ボランティア計画事務所（ドイツのボン）を訪問

ジンバブエ



▲ ハラレ市内職業訓練校（マウント・ハンブデン校）を訪問



▲ ユニセフ訪問



▲ 知事室にて

みながされた。ゆきとどいた計画のおかげで訪日団一行も満足の様子であった。IYEOの今後の活動を大いに期待したい。

3. 成果とこれからの方向性

港町「ながさき」には、中華街があり、中国にゆかりのある方が多く生まれ、この地区の青年たちとの意見交換では、経済問題や社会問題、国際問題など幅広く議論され、有意義な時間となった。

手品とコミュニケーション

山田 和則（長崎県歓送会出席者）
マジシャン

私が小学4年の時である。おくんち祭りの会場で、手品をしているおじさんがいた。前の方で見ていた私に、「好きなコップにさいころを入れてごらん」と言うと、二つの透明なガラスコップを差し出し、さいころを入れさせた。二枚のハンカチをそれぞれのコップにかぶせ、少し間をおいてハンカチを取り上げると、さいころがもう一方のコップに移っているというものであった。これが、手品を意識する初めての出会いだったと思う。

あれから30数年…。昨年の暮れには中国の人たちを前にして、手品を演じる機会を得た。手品をきっかけにして、レセプション後も夜遅くまで交流を深めることができた。国を越えてふれあい、コミュニケーションを図る手だてとして、手品を活用できたことが何よりも嬉しい。

これからも、見せる手品ではなく、ふれあう手品を求めていきたいと思っている。

また、環境問題にも研修が深められた。

今回、中国からの参加青年は、本国ではリーダーとして活躍中の青年たちであると聞いている。各訪問先では、積極的に質問したりするなど研修に対する意欲を伺うことができた。互いの文化の違いを肌で感じながら、新たな交流へとつながったことと思う。帰国後、彼らが各ポジションで研修の成果を生かし、今後活躍することを期待している。一方、地元青年もすばらしい国際交流の機会をもつことができ、改めて長崎県のすばらしさを見直す機会になったことと思う。

最後に、県が窓口となりIYEOと連携しながら受け入れたが、IYEOには、いろんな職域で活躍している青年が多く、有能な人材が豊富な団体である。そして、民の時代である。今後、IYEOが直接受け入れ団体としての時期が近いのではないかと考える。是非検討願いたいと思う。

歓迎会にてマジックを披露する
中国の有名マジシャン、
▼ハン・ヘイ・キョウさん



中国招へいの山形プログラムこぼれ話

梅木 宏（平成7年度ネパール派遣参加）

今年も去年に引き続き中国招へいを山形県で受入れましたがその時の心に残った事、文化の違い等のちょっとしたこぼれ話を三つほど話したいと思います。

一つめは中国青年と一緒に食事会をした時の話ですが、食事会の途中「ホットウォーター」を中国青年の一人がお店の方にお願ひしました。それで何に使うのかと思って見ていたら、そのままフーフと息を吹きかけ、冷ましながらお湯をグイグイ飲んでいました。のどが乾いた程度なら水とかジュースでもと私達は思いますが、そこはあたたかい物を飲食する食文化を持っている国ならではの日本との違いを感じました。

二つめは中国から来た花嫁さんの事です、今回八幡町でもちつきやそば打ち体験等を入れた昼食交流会をやったのですが、その時に中国から来た花嫁さん達も10名程度参加されました。彼女らは事前に中国青年との交流会の話をきいて楽しみにしていたようで、昼食交流会が始まるとすぐに打ち解けて長年の友人のように親しく会話していました。とても楽しそうで話が終わらない様子でした。今では日本で生活している彼女達ですが、自分の生まれた国をいつまでも忘れず、郷愁の念をもっているのだろうと感じられました。彼女らは昼食交流会以外の施設見学等のプログラムにも参加し中国招へいの方達と最後まで楽しく交流していました。

三つめはグループ別でフリーの夕食会をした時の話ですが、リーダーが中国青年と日本青年の意見をまとめてそれぞれお店に連れて行く形にしていたのですが、私（リーダー）の引率したグループのお店は私が事前にちゃんこ鍋屋がいいと思い、勝手にちゃんこ鍋屋に決めていました。そして、お店に連れていき夕食会が始まったのですが、会食途中その時一緒だった私のグループの中国青年の方たちが私に1人ずつ近づいて「あなたは優秀なリーダーです。」と言ってきたのです。私は思いがけない事を言われビックリしましたが、「なぜですか？」と聞き返しました。すると中国青年の方達がこう言ってきました。「私達がどこのお店にしたらいいか悩んでいてどうしたらいいか分かりませんでした。けれど、リーダーがしっかりと決めくれたおかげで迷わずに済みました。」と言ってきたのです。私はどの店にするかみんなで話し合っただけで欲しかったと言ってくるのかなと思っていたのですが、こう言われるとは思いませんでした。中国青年の方達はリーダーが考えを決めて引っ張ってあげるのが優秀なリーダーと考えているようです。

最後に世界には色々な人達がいることや考えがあることをまた学びました。また少し成長したと思います。中国青年のみなさんまた山形へおいで下さい。お待ちしております。

アパカパール？ 日本とインドネシアの文化交流

船と翼の会ふくしま会長 岩橋香代子

平成 13 年度県民の翼自主企画研修に合格し、平成 13 年 12 月 18 日から 26 日までインドネシアのジャワ島とバリ島で「インドネシアと日本の文化交流」をテーマとして

- (1) 獅子踊りの獅子頭の羽を求めて（バロンの面との類似性を探る）
 - (2) インドネシアの農業事情について
 - (3) 両国の民間レベルの国際交流の可能性を探る
- の 3 点を研修課題として自主研修を行ってきました。その中でも特に会津に伝わる彼岸獅子の獅子頭に使われているシャモの養鶏事情と、バリ島の古典舞踏のバロンダンスの面作りについてを重点的に調査をしてきました。

どうして「彼岸獅子の獅子頭の羽」の調査なのか？私は決して文化財の専門家ではありませんし、獅子頭の作り手でもありません。ただ、戊辰戦争の時、若松城落城の危機に援軍の会津藩士の先頭に立って入城を助けた北会津村小松地区の獅子の修復や新しい獅子頭の製作を身近に見る機会があり、ちょっと興味を持ったのがきっかけです。会津の獅子踊りの獅子頭の修復は、現在獅子頭を専門に製作する職人の方がないのが実情で、そのほとんどを会津若松市内の女性が行っているそうです。

昭和 57 年に小松獅子舞の獅子頭の修復を依頼した時「シャモの羽をインドネシアのバリ島に求める」というお話を伺って以来、ずっとそのことが気になっていました。どうしてバリ島なんだろうと。



▲「東南アジア青年の船」インドネシア同窓会会長ロナル氏等と記念撮影（著者左から 4 番目）

インドネシアはイスラム教徒が 90% 以上を占めるイスラム圏の国ですが、バリ島は、バリヒンデー教という独自の宗教観を持つ島で、宗教的儀式と日常生活が密接に結び付いた独特の文化を継承する地域です。その宗教的儀式に闘鶏は欠かせないものなのだそうです。そして、バリの家々では殆ど家で闘鶏用のシャモを飼っています。宗教的儀式のとき、闘鶏が開かれ、負けた鶏はいけにえとして捧げられ、掛け金の一部は寺に寄付されるのだそうです。基本的には、インドネシアの法律では闘鶏は禁じられているのだそうですが、宗教的儀式のときは特別だそうです。また、闘鶏に参加するのは男性だけなのだそうです。

今回の研修は自主研修なので、全て自分で計画をねらなければなりませんでしたが、幸いに木彫の村で有名なマス村出身で旅行会社経営者のカンディアさんという優秀なコーディネーターを得る

ことができ、彼と出会えたことで私の研修目的の90%を達成することができました。そこで、バリ島研修見聞の一部をご紹介します。

インドネシア人は鳥好き

インドネシアの国民は鳥を飼うのが好きで、いたるところで鳥を飼っていました。ジャカルタの高級住宅地でも、ジョクジャカルタの宮殿でも、そしてバリ島でも。地鶏も放し飼いにされていて、観光地でも、市街地の空き地でも、その気になって見てみれば、時と場所を選ばず餌をついばむ姿が何処でも見ることができました。

ジャワ島、ジョクジャカルタのンガスン・パサールという鳥市場では色とりどりの観賞用の鳥や闘鶏用の大シャモだけでなくカラスも売られていました。これは、厄払いの儀式的いけにえにされるということでした。

バリの家々ではほとんどの家で「グウォン・シアップ」と呼ばれる竹でできた直径50cm、高さ70cmほどの鳥かごの中で闘鶏用のシャモを2～3羽は飼っているそうです。闘鶏用のシャモは雄だけで、色は白や赤、茶色が多く黒一色というのは雌なのだそうです。黒色のシャモは、日本鶏の東天紅鶏に似た茶や赤、白との混ざりが多かったようでした。

バリの男たちは毎日シャモの養鶏に余念がなく、グウォン・シアップの中に手を入れて攻撃する真似をしてシャモを羽ばたかせたり、外に出してマッサージをしたり、日々手入れを怠りません。

飼っているのはシャモだけでなく、地鶏も屋敷内に放し飼いにされていました。不思議だったのは、猫や犬が地鶏の近くにいても決して攻撃されなかつ

たことです。バリの人々と同じように穏やかに共存している姿が印象的でした。

バリの闘鶏は一見の価値あり!!

闘鶏は時として現金を儲け、様々な争いや問題が生じたために現在のインドネシアの法律では禁止されています。

しかし、バリ島では自宅の屋敷内に建てられた寺や集落毎の寺院の儀式の際に悪霊を鎮めるために闘鶏が行われ、負けて死んだ鶏の血をいけにえとして捧げ、肉は最後に皆に振る舞われて最高の御馳走になるのだそうです。特にバリの闘鶏の特徴は、シャモの左足に「タジ」と呼ばれる小型のナイフが蹴り爪として縛り付けられ蹴り合います。

闘鶏に参加するのは男たちだけで、女性が参加することはありません。今回のバリ訪問ではカンディアさんのリサーチで、銀細工で有名なチュルク村で大きな闘鶏があるということが判り、彼の口利きで特別に許可をいただいて闘鶏場を見学することができました。とはいえ、一分の空きも無く殺気だった男性が埋め尽くす観覧席に立つ程の勇氣は無く、控え所のシャモたちと観覧席の下で黙々と羽をむしり取る作業だけを見るにとどまりました。しかしツアーでは決して見ることでできない貴重な体験でした。

バロンと獅子のルーツは同じ?

小松彼岸獅子の獅子頭は張り子に漆が重ね塗りがされてできていますが、バリ島の古典舞踊で使用される様々な面は木彫りでできています。そして、

その殆どが木彫で有名な「マス」村で製作されています。

幸運なことにコーディネーターのカンディアさんはこのマス村出身で、お父さんやお兄さんがこの地で木彫の仕事をしていました。特にお兄さんのムラさんは数々の木彫コンテストで優勝する優秀な木彫職人だそうで、彼の工房にはバリ舞踏の面だけではなく、なんと日本の能面も飾られてありました。

私が日本から持参した小松彼岸獅子の修理復元作業の工程写真を見せると「オオー、バロン！」と歓喜の声をあげました。そしてこの面を彫るには見たことがないので大きさが判らないと言いました。私は獅子頭が木でできているのではなく、和紙を張り合わせて漆を重ね塗りしてできている張り子の面であることを説明しました。けれどムカさんは張り子の面を見たことがなく理解できない様子でした。牙のない顔を木で彫り面を作り牙は後からつけて漆を塗っていくと説明しても、上下に牙を持つ「バロン」や「ランダ」の面を彫り上げる彼にとって想像もつかない製作方法だったのかもしれない。

「これはバロンだろう？大きさは判れば多少時間はかかるけれど自分にも彫れると思うよ。」色合いは違っても、それほどにバロンと獅子は面構えと製造方法が似ているのです。バロンはインドから伝えられた、と言われていています。獅子も中国とインドから伝わったと言われていたのでもしかしたらルーツは同じなのかもなどと想像してしまいました。

バロンダンスのランダの面

ムカさんの工房に飾られていたランダの面は素晴らしいものでした。5年の年月をかけて集めた山羊と馬の毛。漂白した山羊の毛を1年間かけて麻糸で編み込んだ老婆にみせた白髪。これだけの材料を集めて仕上がる面は何体も無い、ということでした。バリの人にとってはとても高価なものだが、外国人、特に日本人やアメリカ人にとっては興味深いものであり、そんなに高価なものではないだろうから特別料金にしてあげるのでは是非買って帰らないかと勧められました。

確かにあれだけの材料を使って1年がかりで全て手作業で仕上げられた面と同質のものは土産物屋では見ることができませんでしたし、恐らく日本で購入しようとするれば何十万もする代物だったに違いありません。でも、あまりに素晴らしすぎて、飾っておく場所を考えたら…。手が出ませんでした。

今頃は次に来る予定のアメリカ人に買われてアメリカで飾られているかしら。



▲ バロンダンスの“ランダ”の面を被ってみました

バリ暦の年中行事を調べて訪問を!

バリにはサカ暦とウク暦という2つの暦が使われています。ウク暦では1年を210日とし、行事の多くはウク暦に従って行われ、毎年日が変わります。特に「ニュピ」と呼ばれるサカ暦の正月には仕事や外出、火を起こすことや電気を使うことなどありとあらゆる活動が禁じられています。この日ばかりは観光客も朝6時から次の日の朝6時まで外出することができず、ホテルの中でじっとしていなければなりません。

イスラム教徒には1年のうち1ヶ月「断食」の時があり、この期間は午前5時から午後6時まで食べ物、飲み物を口にすることはできません。そのため会社や学校が休みになるところもあります。断食月が明けるとイデゥル・フィトゥリというお祭りがあります。このときは、日本の盆と正月が一緒に来たような賑わいで、家族や親戚が集まったり、友人宅を訪問したりします。

私がジャカルタに着いた日がちょうどこのお祭りの最中で、国内線飛行機のチケットの入手ができず、ホテルも満室状態で割引も利かず、商店や

オフィスもお休みのところが多くて道路は大渋滞で、国内移動に死ぬ思いでした。

でもバリ島では寺院が多く、運が良ければオダランと呼ばれる寺院の創立祭礼のお祭りがみられるかも!

消えてしまった日本人

イデゥル・フィトゥリのお祭りで国内観光客が押し寄せ、クリスマス休暇を楽しむヨーロッパやオーストラリアなどの観光客で賑やかだったバリ島。でもどこかが違う印象でした。それは、人気の観光スポットから日本人の姿が消えてしまっていたのです。勿論私達以外の日本人が全く居なかったというわけではありませんが、過去3回の訪問の時とは比較にならないほど日本人の数が激減していました。

これは明らかに昨年9月に起きたアメリカ同時多発テロの影響です。ウブドにもクタセントラルビーチにもたくさん居るはずの日本の若い女性たちの姿が消えていました。

日本青年国際交流機構第18回全国大会神奈川大会

日 程：平成14年11月23日(土)～24日(日) 1泊2日

開 催 地：神奈川県横浜市



大会テーマ：あなたと世界の交差点 そんな・・・ヨコハマ物語

*詳細は、マクロコズム5月号よりお知らせしますので、ぜひ日程を確保して下さい。

平成13年度「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議

毎年東京で行われている「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議が、今年は「世界青年の船」の運航時期が「東南アジア青年の船」事業と入替ったことに伴い、初めてシンガポール～「にっぽん丸」の船上、そして東京で行われました。参加国は、オーストラリア、ブラジル、カナダ、チリ、コスタ・リカ、エクアドル、フィジー、メキシコ、ニュー・ジーランド、パラグアイ、ペルー、トンガ、アメリカ合衆国、ヴェネズエラ、及び日本の計15か国でした。代表者は会議開始前からメーリングリストを作成・活用し、積極的に会議に取り組み、今後具体的に実践していける多くの成果を出すことができました。

「世界青年の船」事業既参加青年東京連絡会議日程

月 日	日 程	開 催 地
2001年 12月4日	代表者到着	シンガポール 
12月5日	ランチミーティング・オリエンテーション SSEAYP同窓会メンバーと夕食会	
12月6日	にっぽん丸乗船・出航 会議1 カントリーレポート(各国活動報告) 世界船の広報、参加青年の選考について	にっぽん丸船上
12月7日	会議2 カントリーレポート(続き) 会議3 オーストラリアによるプレゼンテーション SWYAAガイドライン 事後活動セッションの説明と準備	
12月8日	会議4 SWYAAガイドライン(続き) 事前準備マニュアル作成 事後活動セッション(SWY14日本参加青年と共に)	
12月9日	会議5 ホームステイ・ネットワークについて コンピュータ・ネットワークについて 会議6 事前準備マニュアル作成(続き)	
12月10日	会議7 事前準備マニュアル作成(続き) 事後活動セッション(SWY14日本参加青年と共に) 会議8 インターナショナル・リユニオンについて 既参加青年の同窓会活動とのかかわり方	
12月11日	会議9 事前準備マニュアル作成(続き) 日本参加青年の修了式に参加	
12月12日	会議10 内閣府懇談での質問事項の準備 「世界青年の船」事業広報活動について下船準備 会議10 (午前中に引き続き)	
12月13日	晴海埠頭到着 実行委員と夕食会	日 本
12月14日	内閣府にて表敬訪問 国際交流振興担当と懇談 会議11 IYEOより報告 今後の世界船事業への提案	
12月15日	会議12 事前準備マニュアルのまとめ 内閣府主催 既参加青年合同の送別会	
12月16日	帰 国	

★第14回「世界青年の船」事業

平成13年10月26日～12月13日……運航

第14回「世界青年の船」事業は、昨年度のアメリカ合衆国で起こった予期せぬテロ事件の影響で、参加青年の安全性を重視するという判断から、当初の予定（西廻り航路、アラブ首長国連邦、ケニヤ、南アフリカ、モーリシャス訪問）を直前で大きく変更せざるをえなくなりました。

変更後の訪問国は、フィジー、ニュー・ジーランド、シンガポール、タイとなりました。



▲ 内閣府政策統括官（総合企画調整担当）大前審議官を表敬訪問

▼ にっぽん丸の船上にて



(* 外国青年アンケートより)

- ・東京会議はとても効果的であった。我々は船上で熱心に活動し、一致団結することができた。
- ・この会議に参加することによって、確実な成果を生み、事後活動組織間での団結が深まった。
- ・他の国の事後活動組織について学ぶことができ、自国の組織を改善するためのアイデアを得ることができた。

(その他詳細は報告書を作成予定)



▲ 日本青年国際交流機構の事務所にて熱心に議論する代表者たち

ご苦労様、そしてありがとう

平成13年度国際青年育成交流ジンバブエ団

黒川ひとみ

試験の合間に報告会準備をしたのか、その準備の合間に勉強をし、試験を受けたのか。疾風怒濤のうちに過ぎ去った事業報告会本番だったが、実行委員のメンバーに恵まれ、そして参加青年全員の協力により、報告会が成功したのが心から嬉しい。全ての仲間に、「ありがとう」を伝えたい。

パネルディスカッション・全体共に今年度のテーマは、「築こう友情のネットワーク、紡ごう我らの未来」。今まで国際交流を堅苦しく捉えておられた方々には、それを身近に捉えなおし、この事業を知って貰う機会を提供したい。一方で既参加青年や今年度参加者には、お互いの体験や考えを分かち合い、派遣国で築いた友情のネットワークを発展させ、報告会をステップにして事後活動の一環として未来につなげて行ってほしい。そんな思いから、上記のテーマを実行委員たちは打ち出し、報告会成功に向けて各々の才能と個性を出し合った。

ところで、参加青年それぞれが派遣国で得た体験は似ているものもあれば異なるものもあるだろう。それぞれの「国際交流」に対する考え、興味、



▲ パネルディスカッションのコーディネーターを務めるジンバブエ派遣団の黒川さん

そして取り組み方も十人十色だ。そんな多様性があるからこそ、パネルディスカッションのみならず事業報告会全体が来場者の方々のみならず私たち自身にとっても興味深いものになったと言えるのではないかな。

最後に、IYEO事務局の助力により今年度帰国報告会は成功したと思う。それゆえ参加青年・実行委員を代表してこの場を借りてお世話になった全ての方に感謝の意を伝えたい。

平成13年度内閣府青年国際交流事業（航空機による海外派遣）帰国報告会

～ 築こう友情のネットワーク、紡ごう我らの未来 ～

2月3日に開催された航空機派遣事業の報告会は、雨にも関わらず平成13年度派遣団団長、副団長、団員120名に加え、ジョルダン大使館の方を含む約160名の来場者を集める大盛況であった。

全8団の多様性を賑やかな雰囲気で見せるとのコンセプトのもとに進められた実行委員会での議事は大場実行委員長（ジンバブエ団）のもと団結して行うことができた。

＜当日プログラム内容＞主催者挨拶／内閣府青年国際交流事業紹介／パネルディスカッション

ステージ発表&各団ブース展示／事業紹介コーナー

報告会を終えて

第28回「東南アジア青年の船」参加青年
藤井 満春

私たちは、報告会当日まで不安の連続でした。と言うのも、報告会開催の数日前になっても開催日が3連休の中日であったこともあり、参加申込者の数が伸び悩んでいたからです。しかし、私たちは、この事業報告会を一般の方々に「東南アジア青年の船」を知ってもらう良い機会であると思いい、たくさんの方々に参加していただきかけたので、その後もできる限り広報活動を続けました。その結果として、当日は予想を上回る数の方々に来ていただく事ができ、大変嬉しく思いました。

今回この報告会の私たちのコンセプトは、私たち参加青年が船の中でどんな事を体験し、どんな事を思ったのかなどをより多くの人に伝え、「東南アジア青年の船」や「東南アジア」についての理解を少しでも深めてもらい、そして興味を持ってもらえるようにしたいというものでした。当日のプログラムでは、楽しさを中心にこの事業の様々な面を紹介できるように努力しました。当日の参加者の中には、東南アジアに興味がある人やその



▲「東南アジア青年の船」事業報告会実行委員長の藤井さんの挨拶

他のアジア諸国に興味がある人などさまざまな方が訪れてくれました。私たちは東南アジアの各国の衣装に身を包みながら、私たちが感じた「東南アジア青年の船」の魅力を存分にアピールすることができたと思います。私たち参加青年は、サブテーマにもあるように、これからもずっとつながっていくことを信じています。

情熱ふね物語 ～Always be Connected～

2月10日の第28回「東南アジア青年の船」事業報告会は、参加青年の成長を感じる前向きな報告会となった。テーマにある『情熱』は、参加青年が経験した喜び、悩み、笑い、苦しみ、悲しみなどであり、それらの様々な『情熱』を共有した参加青年同士は、『Always be Connected』という団結を育むことができた。実行委員長は、開会式にてこれらのテーマの説明を行うとともに、その体験や感動をより多くの人に還元したい、という参加青年の気持ちを素直に表した。また、参加青年全員が報告会へ関わることを目的として、28回生間で立ち上げているホームページの掲示板にミーティングの議事録を掲載し、検討事項についてはホームページ上で意見交換を行うなどの工夫をした。特に、報告会のテーマについては、地方に住む参加青年も参加できるように、投票にて決定した。このような情報共有は、報告会での参加青年のやる気にもつながり、各参加青年が自らの役割に責任を持つことができたようである。

平成14年度 内閣府青年国際交流事業の参加青年募集

内閣府の行う青年国際交流事業は、諸外国の青年との交流を通して、相互の理解と友好を促進し、広い国際的視野と国際協力の精神を有する次代を担うにふさわしい青年の育成を目指しています。

14年度の募集が実施されています。皆さんのまわりの有望な青年に是非事業を紹介してください。

		航空機による青年海外派遣		世界青年の船	東南アジア青年の船
訪問国	メキシコ、モロッコ、ミャンマー、ルーマニア、スウェーデン、タンザニア(うち1か国)	中国	韓国	オーストラリア、アメリカ合衆国、カナダ[南アジア、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、北米、中米、南米地域の青年約150人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問]	東南アジア諸国[東南アジア10か国の青年約300人と共に船内で共同生活をしながら各国を訪問]
実施時期(期間)	平成14年9月～10月	平成14年9月～10月		平成14年10月～12月	平成14年9月～10月
	23日間程度	19日間程度	15日間程度	45日間程度	50日間程度
募集人員	各約10人	一般団員：中国 約25人 韓国 約25人 ----- 渉外団員：各2人		約120人	約40人
資格要件	国籍	日本国籍を有すること。			
	年齢	18歳～30歳 (昭和46年4月2日～昭和59年4月1日生まれ)	一般団員：18歳～30歳 (昭和46年4月2日～昭和59年4月1日生まれ) ----- 渉外団員：概ね25歳～35歳	18歳～30歳 (昭和46年4月2日～昭和59年4月1日生まれ)	18歳～30歳 (昭和46年4月2日～昭和59年4月1日生まれ)
	青少年活動等	帰国後もその経験をいかして国際交流活動、青少年活動等を活発に行える者			
	語学力など	一般的な教養があり、交流活動を円滑に行える英語力を有すること。	訪問国の公用語による簡単な日常会話能力があれば望ましい。 ----- 渉外団員：訪問国の公用語で任務を遂行できること。	一般的な教養があり、交流活動を円滑に行える英語力を有すること。	
その他	国の行う同種の事業に参加したことのある者は応募できません(ただし、渉外団員への応募はこの限りではない)。				
研修	事前	7月下旬の約6日間		7月下旬の約5日間	7月上旬の約6日間
	出発前	出発直前の約2日間		出発直前の約3日間	出航直前の約3日間
	帰国後	帰国直後の約2日間		帰国直後の約2日間	帰国直後の約2日間
個人負担額	約7万円		約30万円		約30万円
	〔内訳〕研修費(事前、出発前、帰国後)、片道航空運賃(船事業のみ)及び食費、渡航手続費用など(上京・帰郷旅費、旅行保険料等は、別途負担となります。)				
応募窓口	在住都道府県の青少年対策主管課(室) [参加申込書、作文等を提出していただきます。]				

内閣府(青年国際交流担当)

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3-1-1 TEL(03)3581-1181(月～金 9:30～17:45)

ホームページ <http://www8.cao.go.jp/youth/bosyu.html>

平成14年度都道府県青年国際交流事業担当課一覧

都道府県及び 政令指定都市	主 管 課 (室) 名	電 話 番 号 (*直通)	募集期間	中間選考日
1 北海道	総務部知事室国際課 環境生活部生活文化室(青年の村)	011-231-4111 (21-215) 011-231-4111 (24-513)	3/ 1~29	書類選考
2 青森県	環境生活部青少年課	017-734-9224 *	3/ 4~4/ 5	4/17
3 岩手県	環境生活部青少年女性課	019-629-5346 *	3/ 1~4/ 5	4/19
4 宮城県	教育庁生涯学習課	022-211-3654 *	3/ 1~4/ 1	4/17
5 秋田県	生活環境文化部県民文化政策課	018-860-1552 *	3/11~4/10	4/17
6 山形県	文化環境部県民生活女性課	023-630-2101 *	3/ 4~4/ 4	4/17
7 福島県	生活環境部県民生活課	024-521-7187 *	3/ 4~4/ 5	4/18
8 茨城県	女性青少年課	029-301-2183 *	3/ 1~29	4/19
9 栃木県	生活環境部女性青少年課	028-623-3075 *	3/ 1~26	4/17
10 群馬県	保健福祉部青少年こども課	027-223-1111 (2619)	3/ 1~29	4/8~12
11 埼玉県	総務部青少年課	048-830-2912 *	3/ 4~29	4/13
12 千葉県	環境生活部県民生活課	043-223-2330 *	3/ 1~28	4/16
13 東京都	教育庁生涯学習部社会教育課(選考試験) 生活文化局都民協働部青少年課(青年の村)	03-5321-1111 (54-444) 03-5321-1111 (29-571)	3/ 1~4/ 5	書類選考
14 神奈川県	県民部青少年課	045-210-3844 *	3/ 1~22	4/14
15 山梨県	企画部県民室青少年女性課	055-223-1357 *	3/ 1~4/ 5	書類選考
16 新潟県	福祉保健部児童家庭課	025-280-5214 *	2/25~3/29	4/18
17 富山県	生活環境部女性青少年課	076-444-3136 *	2/25~3/26	4/18
18 石川県	県民文化局女性青少年課	076-223-9112 *	3/11~4/10	4/21
19 福井県	県民生活部青少年女性課	0776-20-0297 *	3/ 1~4/ 8	4/16
20 長野県	社会部青少年家庭課	026-232-0111 (2358)	3/ 1~29	書類選考
21 岐阜県	地域県民部青少年課	058-272-1111 (2422)	2/25~3/25	4/11
22 静岡県	教育委員会事務局青少年課	054-221-3312 *	3/ 1~20	4/12
23 愛知県	県民生活部社会活動推進課	052-961-2111 (2485)	3/11~4/ 1	書類選考
24 三重県	生活部青少年育成担当	059-222-5986 *	3/ 1~29	4/11
25 滋賀県	教育委員会事務局生涯学習課青少年室	077-528-4661 *	3/ 1~29	4/14
26 京都府	府民労働部青少年課	075-414-4306 *	3/ 1~29	4/18~19
27 大阪府	生活文化部青少年課	06-6941-0351 (4844)	2/25~3/22	4/ 8
28 兵庫県	県民生活部生活文化局こころ豊かな人づくり推進課 (神戸県青少年本部事業推進部青少年交流担当(選考試験))	078-362-3143 * 078-360-8581 *	3/ 1~27	4/10
29 奈良県	生活環境部青少年課	0742-27-9891 *	3/ 1~4/ 5	書類選考
30 和歌山県	環境生活部共生推進局青少年課	073-441-2503 *	3/ 1~29	4/14
31 鳥取県	生活環境部県民活動推進課	0857-26-7076 *	3/ 1~22	4/12
32 島根県	総務部国際課	0852-22-5019 *	3/ 1~30	4/19
33 岡山県	生活環境部青少年課	086-224-2111 (2544)	3/ 1~29	4/16
34 広島県	環境生活部管理総室青少年室	082-228-9335 *	3/ 1~4/ 5	4/17
35 山口県	環境生活部県民生活課	083-933-2634 *	3/ 1~29	4/12
36 徳島県	県民環境部青少年育成チーム	088-621-2176 *	3/ 1~29	4/14
37 香川県	生活環境部青少年女性課	087-832-3195 *	3/ 1~4/10	4/21
38 愛媛県	保健福祉部児童福祉課	089-941-3434 *	3/ 1~4/ 3	4/19
39 高知県	文化環境部国際交流課 健康福祉部こども課(青年の村)	088-823-9605 * 088-823-9637 *	3/ 1~31	4/11
40 福岡県	生活労働部青少年課	092-643-3387 *	3/ 1~4/ 2	4/18
41 佐賀県	厚生部児童青少年課	0952-24-2111 (1549)	3/ 4~4/ 5	4/17
42 長崎県	教育庁生涯学習課	095-824-1111 (3366)	3/ 1~4/ 5	4/16
43 熊本県	環境生活部県民生活総室	096-383-1111 (7408)	3/11~4/ 5	4/12
44 大分県	生活環境部女性青少年課	097-536-1111 (3048)	3/ 1~4/ 5	4/19
45 宮崎県	生活環境部女性青少年課	0985-26-7041 *	3/ 1~31	4/8~12
46 鹿児島県	環境生活部青少年女性課	099-286-2554 *	3/ 1~29	4/17
47 沖縄県	福祉保健部青少年・児童家庭課	098-866-2174 *	3/ 1~4/ 5	4/18

内閣府青年国際交流事業一覧

平成 14 年度に内閣府が行う事業は以下の通りとなります。各地で受入れも実施されますのでよろしくご協力ください。次号に各地の受入れ日程をお知らせします。

事業名	事業の内容
国際青年育成交流	<ul style="list-style-type: none"> ●皇太子殿下の御成婚を記念して、平成 6 年度に開始。 ●日本青年の海外派遣及び外国青年の日本招へいの 2 つの事業から構成。 ●当時皇太子殿下であられた現天皇陛下の御成婚記念事業として昭和 34 年度から開始された「青年海外派遣」事業及び昭和 37 年度に開始された「外国青年招へい」事業を継承発展。 ●ボランティア活動、福祉活動、伝統文化等の共同体験交流を中心とした拠点滞在型の国際交流活動を実施。 ●日本青年約 60 名を世界 6 か国に 23 日間派遣、世界 11 か国から外国青年約 100 名を 24 日間招へい。
日本・中国 青年親善交流	<ul style="list-style-type: none"> ●日中平和友好条約の締結を記念し、日本を中国両国政府の共同事業として昭和 54 年度に開始。 ●日本青年約 30 名を 19 日間派遣、中国青年約 30 名を 20 日間招へい。
日本・韓国 青年親善交流	<ul style="list-style-type: none"> ●昭和 59 年の日本・韓国共同声明及び昭和 60 年の日韓国交正常化 20 周年を踏まえ、日本と韓国両国政府の共同事業として昭和 62 年度に開始。 ●日本青年約 30 名を 15 日間派遣、韓国青年約 30 名を 16 日間招へい。
世界青年の船	<ul style="list-style-type: none"> ●明治百年事業の一つとして昭和 42 年度から実施してきた「青年の船」事業を改組し、昭和 63 年度に開始。 ●日本青年約 120 名と訪問国を含む世界各国 12 か国の青年約 150 名が 45 日間船内で共同生活をしながら、世界的視点に立って共通の課題の研究・討論、各種の講義、スポーツなどの交流活動を行うとともに、訪問国では現地青年との交流活動を実施。 ●北・中・南米、オセアニア方面と南西アジア、アフリカ、中近東等方面を隔年で訪問。
東南アジア青年の船	<ul style="list-style-type: none"> ●アセアン各国を日本との間の共同声明に基づいて、昭和 49 年度に開始。 ●アセアン 10 か国の青年約 300 名を日本青年約 40 名が 50 日間船内で共同生活をしながら、アセアン各国及び日本を訪問。
21世紀ルネッサンス 青年リーダー招へい	<ul style="list-style-type: none"> ●21 世紀のスタートにふさわしい新たな交流事業として平成 13 年度に開始。 ●世界各国の青年リーダー約 84 名を 14 日間招へいし、日本の青年リーダーとの討議・交流を実施。
青年社会活動 コアリーダー 育成プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●社会活動の中核を担う青年リーダーの育成を目的に平成 14 年度に開始。 ●社会活動に携わっている日本青年と外国青年が討議・交流を実施。 ●日本青年約 15 名を 10 日間派遣、外国青年約 45 名を 14 日間招へい。
国際青年の村	<ul style="list-style-type: none"> ●国連が提唱した国際青年年（IYY）の記念事業として昭和 60 年度に開始。 ●日本青年と世界各国の外国青年が一堂に会し、約 1 週間寝食を共にする中で、各種交流活動を実施。

第15回SSEAYP International 総会について

1. **開催日時**： 平成14年5月16日（木）～19日（日）
2. **主催団体**： SSEAYP International
日本青年国際交流機構（IYEO）
3. **参加費**： US\$200.00～（外国人参加者）
¥28,000～（日本人参加者は、17日～19日までの2泊3日の参加費）
4. **プログラム**：

日程	プログラム内容	会場	宿泊
5月16日 （木）	海外からの参加者来日		利ビッセンター
5月17日 （金）	開会式 総会（General Assembly） 昼食会 ワークショップ 歓迎レセプション	利ビッセンター	都内ホテル
5月18日 （土）	東京近郊ツアー ① 東京都内、②鎌倉、③箱根、 ④富士山、⑤日光 閉会式／歓送会		都内ホテル
5月19日 （日）	参加者帰国		

詳細をご希望の方は、ホームページでご覧いただくか、「SIGA概要希望」と記載のうえ、FAXか郵送にてお送り下さい。

5. 問合せ・申込み先：

日本青年国際交流機構（IYEO）SIGA 係

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

Tel:03-3249-0767 Fax:03-3639-2436 E-Mail:siga@iyeo.or.jp

Homepage URL: <http://www.iy eo.or.jp/sigajapan>

坂本 達 講演会



「旅する自転車、100万回のありがとう」 4年3ヶ月も有給休暇をもらって、世界一周
5万5000キロを走ってきちゃった!!



MACROCOSM 1月号でもお伝えした青少年国際理解セミナーがまもなく開催されます。今なら参加申込にまだ間に合いますので、多くの方を誘ってご参加下さい。

期 日	平成14年3月30日(土)
講演時間	10:00～11:50(会場9:30～)
参加費	1,000円(9:30～10:00 ティーサービス付き) 当日受付にてお支払い
会 場	東京全日空ホテル B1 ギャラクシー (最寄駅:銀座線・南北線溜池山王駅)
定 員	100名(先着順)
申込方法	電話・FAX・e-mailにて受付 ホームページ上からも申込可能 www.iyeo.or.jp をご参照ください。

坂本 達 … 株式会社ミキハウス勤務 (<http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>)
第18回「東南アジア青年の船」参加
(詳細は1月号MACROCOSMをご参照下さい。)

編集後記

不安定な時代ですが、こうした時だからこそ未来を見据えて希望を持って前進しなければならないのでしょうか。世界の出来事が、すぐ身近に影響

してくる時代です。様々な事柄を自分自身に関係することとして真剣に捉え、考えていく覚悟が必要な時代でもあるようです。

* 本誌の年間講読をご希望の方は、(財)青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM(マクロコズム) 3月号 Vol.45 2002年3月1日発行(隔月発行)

編 集: マクロコズム編集委員会

発 行: 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL <http://www.iyeo.or.jp>

編集協力: 内閣府政策統括官
(総合企画調整担当)

日本青年国際交流機構

定 価: 198円(本体189円)

印刷所: 株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960



▲ 全国人民政治協商会議
貴鮮副主席を表敬訪問する石和田団長



万里の長城にて ▲



▲ 討論の成果発表会



派遣

▲ ホームステイにて



▲ 新宿区立四谷第六小学校にて

▼ 麗澤大学中国学科の学生と意見交換



招へい

日本・韓国青年親善交流



▲ 韓国青少年局長に記念品を渡す山内団長



文化観光部の方々と記念撮影 ▲

招へい

▼ 九州民芸村(北九州市)にてあい染



派遣



▲ ワールドカップ前に
日韓サッカー交流



▲ 豊島区立池袋第三小学校にて



▲ 日本・韓国青年親善交流のつどいの分科会にて



船旅をこよなく愛した哲学者

ベルジャエルは言っております。

「客をもてなすのは、恋をするのに似ている。

敏感でなければいけないし、また変化も必要だ」

さすがは賢き旅人、巧いことをおっしゃる。

大いにうなずいてしまいます。

時間によって葉を選び、恋する心をそそぎます。

と申しますのも、MOPASのクルーズでは、

常にお客様の機微を知り、一日のT・P・Oに合った

おもてなしを心掛けているからです。

たとえば紅茶ひとつをとって見ても、

まだ眠気の残る朝には、深いこくのある

〈モーニングアールグレイ・ティー〉を。

また、ゆったり微睡む午後には、

香りを楽しむ〈ヌワラエリヤ〉で。

そしてディナーの後のひと時には、

英国女王陛下もお気に入り、〈キーマン・ティー〉を、と。

それぞれにテイストを変えているのです。

つまり、MOPASは「恋する心でおもてなし」。

これではちよつと言ひ過ぎでしょうか…。

「海に教えてもらった、海のおもてなし」

海との長い付き合いの中で、

MOPASのクルーズは、

そんなおもてなしの心を守り続けているのです。

※「MOPAS」は商船三井客船の愛称です。



海には海のおもてなし。

MOPASのクルーズ

レジャークルーズのお問い合わせはMOPASクルーズデスクへ



商船三井客船

商船三井客船株式会社

■お問い合わせ、お申し込みはMOPASクルーズデスクへ。フリーダイヤル ☎ 0120-791-211

行ってらっしゃい、
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

旅のすべてを知っている東急観光です。



豊かな感動のステージへ
東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://tour.tokyu.com>